

第11回 みどりのまちづくり賞

OSAKA LANDSCAPE AWARD 2022

第11回 みどりのまちづくり賞
(大阪ランドスケープ賞2022)

作品集

OSAKA LANDSCAPE AWARD 2022

後 援

大阪都市公園協議会／公益社団法人日本都市計画学会関西支部
公益社団法人日本造園学会関西支部／公益社団法人都市住宅学会関西支部
一般財団法人日本造園修景協会阪奈和支部／一般社団法人日本造園建設業協会大阪府支部
一般社団法人日本造園組合連合会大阪府支部／阪神造園建設業協同組合
一般社団法人大阪造園業協会／一般社団法人大阪市造園業協会
公益社団法人土木学会関西支部／一般社団法人公園管理運営士会西日本支部
都市環境デザイン会議関西ブロック

主 催

大阪府
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



みどりのまちづくり賞 事務局

〒540-0008 大阪市中央区大手前3丁目2-12
大阪府 都市整備部 公園課 企画推進グループ内
電話：06-6941-0351 (内線2984) FAX：06-6944-6796

みどりのまちづくり賞は、「みどりの風を感じる大都市・大阪」を推進する大阪府、「自然と人間との共生」を掲げる公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、並びに、「みどり豊かなランドスケープデザインとマネージメント」を目指す一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部の3者が共催で実施しています。

かけがえのないみどりを守り、増やし、豊かな環境を後世に残し、魅力的なまちづくりを進めるためには、駅前や企業の敷地、公共施設の周辺などのセミパブリック空間をまち並みと調和した花や緑あふれる美しい景観として創造し、さらにそれらを実現するために取り組まれている多くの人々が笑顔でつながることが大切です。

本賞では、みどりのまちづくりに貢献する「まちが美しくなるみどりづくり」・「まちが笑顔になるみどりづくり」に取り組まれた方々を表彰し、みどりへの理解が進み、美しい大阪のまちづくりに寄与できますことを願っています。

総 評



審査委員長
増田 昇

11回目を迎えた本年は、依然コロナ禍が続く中で、幸いなことにランドスケープデザイン部門は18作品の応募がありましたが、市民の方々の活動が中心となるマネジメント部門は、昨年同様影響が続き、残念ながら5件の応募に留まりました。

1次審査では、デザイン部門9作品とマネジメント部門4件を2次審査の対象として選出しました。2次審査は1年ぶりに通常の現地審査を実施しましたが、特に、デザイン評価に際しては、全体景観の観点や五感から評価する現地審査の重要性が再確認できました。

デザイン部門は非常に充実しており、知事賞2作品、協会会長賞1作品、支部長賞1作品と3賞計4作品に加え、審査委員長特別賞1作品、奨励賞1作品を選出しました。一方、マネジメント部門は活動制限が続く中で3賞に値する取り組みは無く、奨励賞2件としました。

デザイン部門の知事賞を見ると、安満遺跡公園は弥生の空間をイメージした伸びやかな空間の中におしゃれな民間施設が適度に配置されており、多くの親子連れや子供たちの利用で活気があり温かみのある風景が展開しています。守口市立さくら小学校は、開放的で共用部の充実した木造校舎に加え、残されたクスの巨樹があたかも小学校を見守っているようであり、優しさや温かみにあふれる風景を呈しています。協会会長賞のグランドメゾン新梅田タワーTHE CLUB RESIDENCEは「都心の里山」をテーマに公開空地が充実しており、生物多様性への配慮とともに新たな交流の場が創出されており、緑の豊かさや潤いのある風景が創出されています。支部長賞の枚方市総合文化芸術ホールは、建物内部の光庭から軒先緑化を経て広場空間に連続する緑のつながりが強く意識でき、緑の豊かさの中に文化芸術の場を想像させる風景となっています。特別賞とした大阪梅田ツインタワーズ・サウスは約240mに及ぶファサードにアルミパネルと大小6種類の特殊プランターが市松模様にも編み込まれ、緑を基調とした新たなファサードの演出にチャレンジしています。

奨励賞としたデザイン部門の富田林の家は小型物件ながら地形と緑と一体なる建築へのチャレンジが感じられることやマネジメント部門の「花みどり友の会」と「なのはなPROJECT」は都心にあって個性の表出にひと工夫された活動であり、いずれもきらっと輝くものがあります。

益々質の向上が感じられるデザイン部門は引き続き大いなる発展が期待されることに加え、コロナ禍による行動制限も徐々に緩和されつつあり、マネジメント部門の新たな展開も期待されます。

安満遺跡公園

所在地 高槻市八丁畷町
事業主 高槻市、UR都市機構西日本支社
設計者 (公園) 株式会社空間創研、株式会社地球号
(建築) 株式会社INA新建築研究所西日本支社
(防災公園事業エリア) 株式会社オオバ大阪支店、中央コンサルタンツ株式会社大阪支店
施工者 株式会社富士グリーンテック西日本支店、大日本永商永大JV、大鉄工業株式会社



本作品は史跡公園整備と防災公園整備の2事業によって創出された約22haの高槻市の総合公園です。中心部は弥生時代の環濠集落の居住域から構成され、そこには近代建築遺産である旧京都大学農学部附属農場の建物群がガイダンス施設やレストラン等として新たな息吹が吹き込まれています。環濠の外周部は弥生時代の伸びやかな空間が体感できる草原が展開し、背景に安満山を望む風景が展開しています。また、墓域や生産域(水田跡)もイメージ復元されるとともに、草原の一角には覆い屋(SAKURA広場)とふわふわドームが整備され、伸びやかな空間を背景に多くの親子連れや子供たちで活気あふれる風景が出現しています。公園エントランス部は環濠集落を望む軸性を持ったメイン園路からなり、左右に大きな軒を持

ったパークセンターとお洒落なレストランが配され、オープンスペースを基調とした都会的な雰囲気醸成されています。軒下の人工芝が広がる空間も子供たちや親子連れであふれかえっており、活気とともに温かみのある風景が展開しています。

市民活動と適度な民間施設の立地によって、弥生時代をイメージした伸びやかなオープンスペースを基調としながら、活気と温かみのある風景が徐々に熟成されつつあり、公園の理念である「市民とともに育てつづける」が体現されています。

講評：大阪府立大学名誉教授 増田 昇

守口市立 さくら小学校

所在地 守口市東光町
事業主 守口市
設計者 株式会社昭和設計
施工者 南海辰村建設株式会社



さくら小学校は明治からこの地にあった小学校敷地に新設された小学校です。継承された緑とオープンスペースが、新しい小学校でありながらも、地域と学校の歴史を感じさせるものとしています。

かつてのシンボルであった校内の3本のクスノキは、交流の核となる場所で継承され、その偉容を校内の様々な場所から感じ取ることができます。さらに、ケヤキを囲む中央の中庭は学年を越えた児童の交流、ケヤキと一体となった西側の芸術広場(屋外舞台)は地域との交流を育むコミュニティランドマークともなっています。そして小学校に求められるセキュリティと公開性の両立に関しても、学びの空間と地域をつなぐ機能とクッションとなる緩衝

機能を、外周部に設けられたポケットパークや緑道(将来的には地域住民の日常動線として開放することも可能)が提供しています。

新校舎でありながらも時間の継承を感じさせるデザインや、地域の皆さんの利用を前提に開き方を調整する仕組みは、緑・オープンスペースの機能を上手く活かした大阪府知事賞にふさわしい作品であり、これからも地域とともに新たな歴史を作り出していくシンボルとなることを期待します。

講評：大阪大学大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 助教 松本 邦彦

枚方市 総合文化芸術センター

所在地 枚方市新町
事業主 枚方市
設計者 株式会社日建設計
施工者 前田建設工業株式会社、株式会社西川造園
株式会社前田造園

背後に大きな芸術ホールがあると全く感じさせない豊かな緑に囲まれたエントランス芝生広場、建築内も含め随所で居心地の良い緑との交わり、敷地の境界を周辺と馴染ませるデザイン的配慮など、建築設計段階からしっかり計画検討されたからこそ実現された大変すばらしい公共ランドスケープ事例である。ほとんどの高木は各場所を想定しながら選定して植えられたというだけあって、樹木の質の高さと場所における収まりもすば

らしい。民間の優良なプロジェクトと同様の質の高さを公共工事でも担保されていることに、関係者の皆様方の並々ならぬ努力に敬意を表します。

屋内外の自然と一体となった上質の空間が、地域全体の空間の質の向上に大きく貢献しており、「市内の緑化活動のフラッグシップとなる」という高い志が見事に現実化されている。

講評：株式会社庭樹園 代表取締役 當内 匡



ランドスケープデザイン部門
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長賞

グランドメゾン新梅田タワー THE CLUB RESIDENCE

所在地 大阪市北区大淀南
事業主 積水ハウス株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
東急不動産株式会社、東京建物株式会社
エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社
株式会社アサヒプロパティズ
設計者 株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
施工者 株式会社竹中工務店大阪本店



総戸数871戸の大規模集合住宅と店舗・保育所の複合施設である。「都心の里山」をテーマとし、大阪の気候風土に根ざした在来種を中心に整備された公開空地は3,600㎡を超えているが、建物群は道路から大きく控えて配置されていることから、中庭のような落ち着きを醸し出している。防災広場ともなる芝生広場が中央にあり、これを取り巻くように鳥や蝶が好む樹種によって構成された草地や樹林地、散策路、石畳の小径、ピクトープなどが配置されている。回遊することで多彩な環境を味わうことができ、自然と人との新たな交流の場となっている点が注目される。

建物形状を見ても分かる通り、35階部分はセットバックしている。ここには住人の憩いの空間であるスカイラウンジがあるが、これと連動して戶外空間「スカイテラス」の緑が整備されており、淀川・六甲山系・大阪湾の眺望や、夏には花火を楽しむことができる。さらに店舗・保育所棟の屋上にはコミュニティサロンや入居者専用のプライベートテラスがあり、子どもが遊ぶ様子を安心して見守ることができる。

大阪の中心部において街の緑の向上に寄与し、生物多様性を図りつつ、地域住民の新たな憩いと交流、安全・安心の場を創出している点が高く評価され、授賞に至った。

講評：京都芸術大学 芸術学部 歴史遺産学科 教授 仲 隆裕

大阪梅田 ツインタワーズ・サウス



所在地 大阪市北区梅田
 事業主 阪神電気鉄道株式会社
 阪急電鉄株式会社
 設計者 (設計) 株式会社竹中工務店
 (基本計画・特区申請・基本設計)
 株式会社日本設計
 施工者 (建築) 株式会社竹中工務店
 (造園) 阪神園芸株式会社

都心部の再開発が進み変貌著しい大阪駅界隈に、斬新な都市景観が生み出された。まず目を奪われるのは、低層部に広がる外壁全体を覆う壮大な壁面緑化である。一定のリズムを刻む硬質なアルミパネルと、多様な植栽で構成された大小のプランターが織りなすユニットが延々と連なる光景は比類なく、まさに圧巻である。外観上のインパクトのみならず、建物内からの視線も熟慮されている点、かつ、人々はもちろん、生育する生物の動線も考慮し地上部から屋上広場に至るまで緑地が立体的に展開している点も、高く評価できる。

今後、時と共に植栽が肥大・伸長していき、また異常気象が常態化しつつある状況下、枝折れや根上がりの防止等、健全かつ安全な状態を維持する植栽管理が課題であり、その徹底した管理体制のもと、都心のシンボリックな風景として未永く定着・熟成していくことを期待したい。

講評：奈良県立大学 地域創造学部 地域創造学科 教授 井原 緑

募集対象

大阪府内における、みどりの景観づくり及び活動を実施している府民、団体、企業、市町村など

応募数

- 1. ランドスケープデザイン部門 18件
- 2. ランドスケープマネジメント部門 5件

スケジュール

募集：令和4年5月18日(水)～7月19日(火)
 第一次審査：令和4年8月30日(火)
 第二次審査：令和4年10月3日(月)、令和4年10月7日(金)
 表彰式：令和4年11月21日(月)

審査方法

みどりのまちづくり審査委員会により、応募書類による書類審査(一次審査)、現地審査(二次審査)により選考。

審査委員

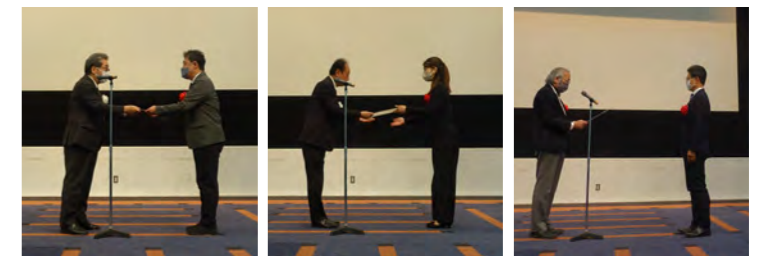
- 増田 昇 (大阪府立大学 名誉教授)
- 當内 匡 (榊庭樹園 代表取締役)
- 弘本由香里 (大阪ガスネットワーク(株)事業基盤部エネルギー文化研究所 特任研究員)
- 仲 隆裕 (京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科 教授)
- 井原 緑 (奈良県立大学地域創造学部地域創造学科 教授)
- 松本 邦彦 (大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 助教)

表彰式・講評会

開催日時・場所：11月21日(月) 13:30～16:30 咲洲ホール
 進行：表彰式(全8作品)
 総評及び作品発表(3賞及び特別賞)
 各作品講評及び意見交換会(審査委員、受賞者)

表彰式

主催者代表および審査委員長から各受賞者に表彰状、副賞を授与。



表彰式の様子

総評及び作品発表

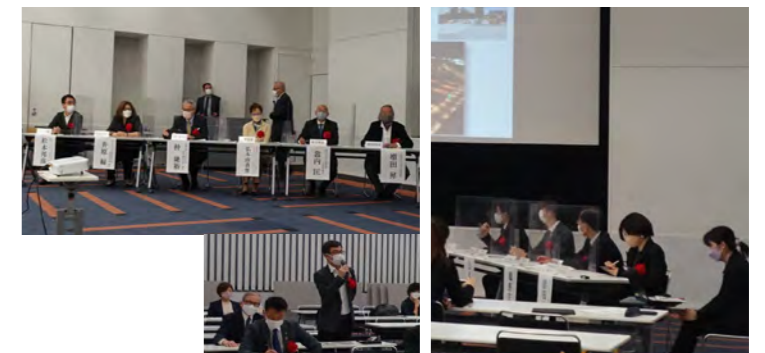
審査委員長より、受賞作品の作品の総評。その後、安満遺跡公園、守口市立さくら小学校、グランドメゾン新梅田タワーTHE CLUB RESIDENCE、枚方市総合文化芸術センター、大阪梅田ツインタワーズ・サウスの順に作品発表。



作品発表の様子

各作品講評及び意見交換会

各受賞作品の講評を担当した審査委員から、評価された点についてのコメントと工夫や苦労した点などについての質問、受賞者からの応答が交互になされた。最後に、コモンズとしての価値を高めていくための造園と建築のコラボのあり方、温かみのあるデザイン、居心地の良さを醸し出す設計とは、今後の大阪のみどりのまちづくりの展開、などについて意見交換が行われた。



講評と意見交換会の様子

審査委員長からのまとめ

意見交換会を通し、建物を含めた一体的な空間づくりにおけるトータルランドスケープの展開、景観を公共財として視覚空間で見た場合の多様性に富んだ視点場の確保、さらには地域への思いや人情味の表現の工夫などが重要な視点であるとされた。その上で、受賞作品はランドスケープにおいて大事なキーワードである“スケール感”、“時間軸”、“生命を扱っていること”を深く意識されていることへの賞讃と受賞作品を手本とした温かみのあるランドスケープの今後の展開への期待が述べられた。



表彰式後の全体記念写撮影

ランドスケープデザイン部門 奨励賞

富田林の家

所在地 富田林市
 事業主 三谷勝章
 設計者 三谷勝章
 荻野景観設計(荻野寿也、荻野彰大(造園))
 施工者 いなせ建設株式会社
 佐藤礼二、荻野景観設計(造園)



本作品は敷地面積約150㎡の戸建て住宅であるが、接道部をセットバックし地形勾配を持たせ、全面クローバーに覆われた斜面緑地に庭石と樹木を適度に配し、この斜面緑地を前景として塀の向こうの中庭の緑と続き、高さを抑えた平屋の大屋根の背景に緑を垣間見ることが出来る重なり合う緑のつながりとともに、緑と住戸とが相互に作用する関係性が感じられる風景が創出されています。

生垣や柵、塀等で構成される通常のやや閉鎖的な戸建て住宅地が続く風景の中で、開放的で広がりのある空間と緑が街並みに提供されており、小型の物件ではあるものの、通常の戸建て住宅地の風景に一石を投じており、きらっと輝く作品であります。

講評：大阪府立大学名誉教授 増田 昇

ランドスケープマネジメント部門 奨励賞

花みどり友の会 なのはなPROJECT

所在地 大阪市港区八幡屋公園八角花壇、
 港区役所庁舎前花壇、など
 事業主 花みどり友の会
 所在地 大阪市北区茶屋町、鶴野町一帯
 事業主 北梅田まちづくり協議会
 『なのはなPROJECT』実行委員会



大阪市港区の協働のみどりの一環で取り組まれている、港区内の花とみどりのボランティア活動である。行政の働きかけで始まった活動は、とんとんと受け身的になりがちで、マンネリ化しやすいものだが、港区の「花みどり友の会」はそうではない。グリーンコーディネーター、緑化リーダー、花友リーダーと一般ボランティア、総勢121人を数えるメンバーが、日々楽しみながら、互いに学び合いながら、財政の厳しさにも負けず前向きに知恵を出し合い、公園事務所のアドバイスを受けながら、花壇のデザインや植付けの考え方を見直し、宿根草や山野草の導入など、花とみどりの質を高め、コミュニティを育み、生活をより豊かなものにしている様子が、生き生きと伝わってくる。

さらなる発展を期待したい。

講評：大阪ガスネットワーク株式会社
 事業基盤部 エネルギー・文化研究所
 特任研究員 弘本 由香里



繁華街として賑わう大阪市北区の茶屋町・鶴野町一帯は、かつては菜の花畑が広がり、風情を楽しむお茶屋が並ぶ閑閑な地域だった。失われた記憶を呼び覚まし、今はみどりの乏しい繁華街に潤いをもたらすべく、地区内の住民や事業所、企業等による、北梅田まちづくり協議会が取り組んでいる活動が、『なのはなPROJECT』だ。

年間を通じて街角に設置されているプランターは目立たないものの、昨春秋、コロナ禍で減った人との出会いやつながりを取り戻そうと、来街者に菜の花の種を渡して育ててもらい、春に菜の花を回収してまちを彩る取り組みには350人が参加したという。今秋も種が配布され、来春の開花を待っている。記憶の風景の耕しから実風景の潤いへ、空間的な広がりを期待したい。

講評：大阪ガスネットワーク株式会社
 事業基盤部 エネルギー・文化研究所
 特任研究員 弘本 由香里